

新米 女神の お仕事は 辛い

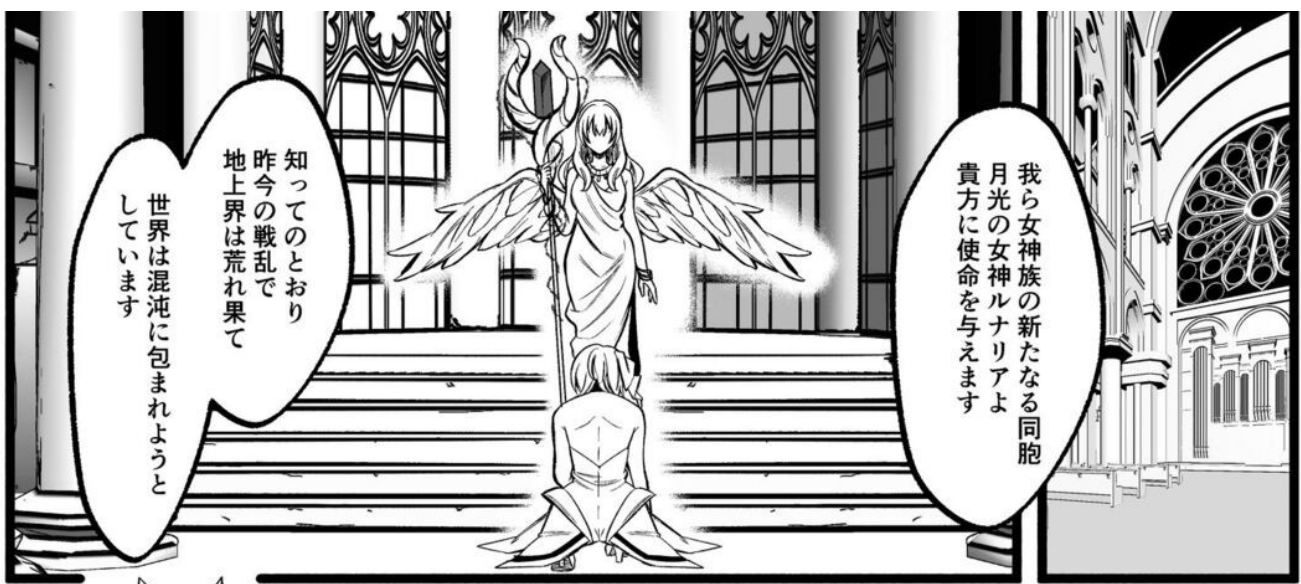
著者★エルトリア
作画★砂場遊
表紙★ゆきハル

「騙されて奴隷娼館で働くことになった私は変態王子の妃になりました」



聖華快樂書店





我ら女神族の新たな同胞
月光の女神ルナリアよ
貴方に使命を与えます

知つてのとおり
昨今の戦乱で
地上界は荒れ果て

世界は混沌に包まれようと
しています



∴地上界に転送します



かしこまりました

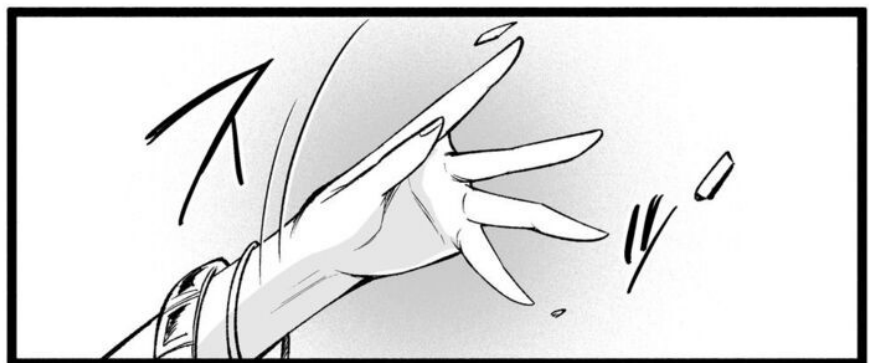
このルナリア必ずや使命を
成し遂げ
アウローラ様の期待に
応えて見せます!

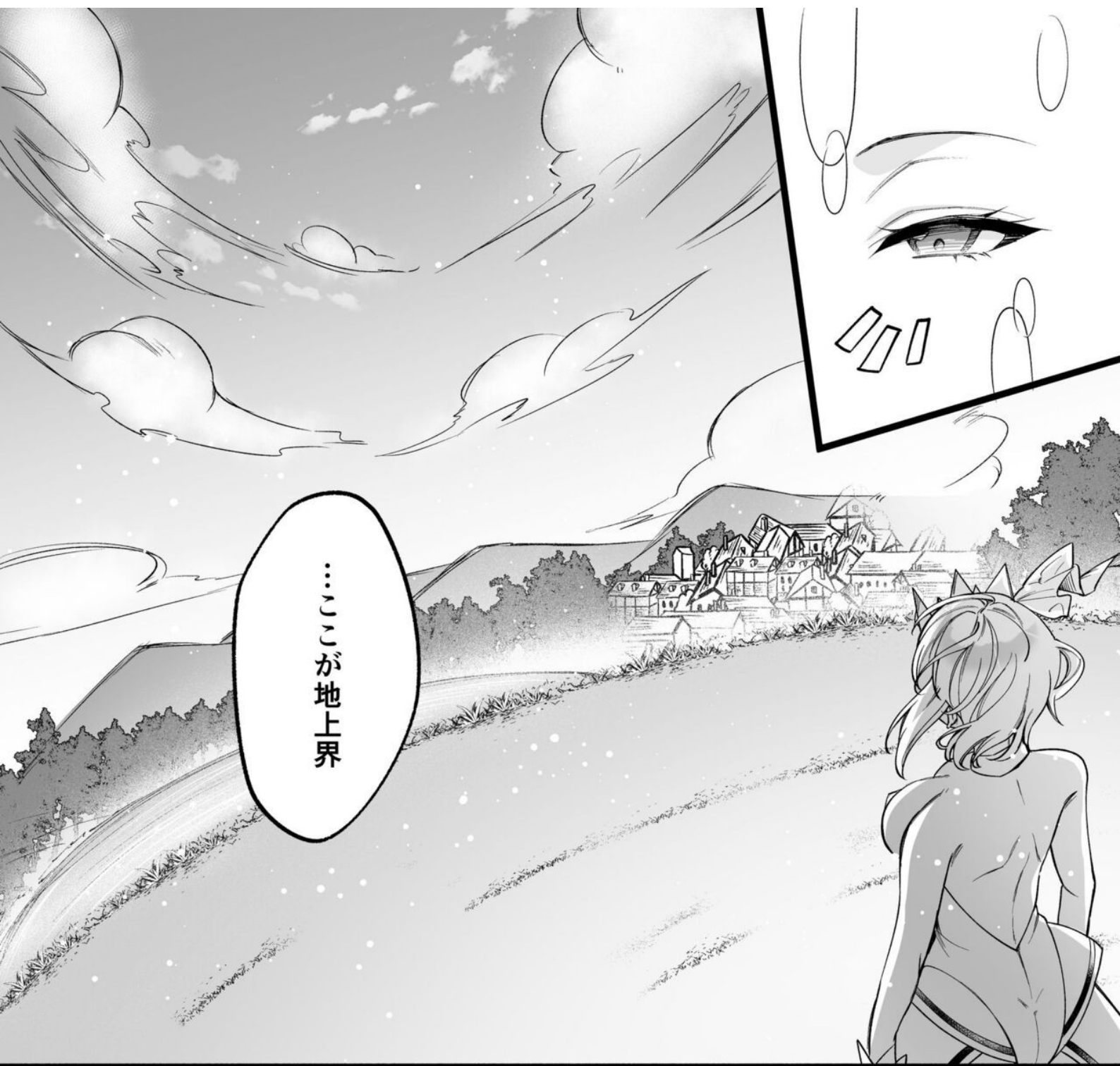


貴方には地上界に赴き
地上の人々に救いの手を
差し伸べて欲しいのです

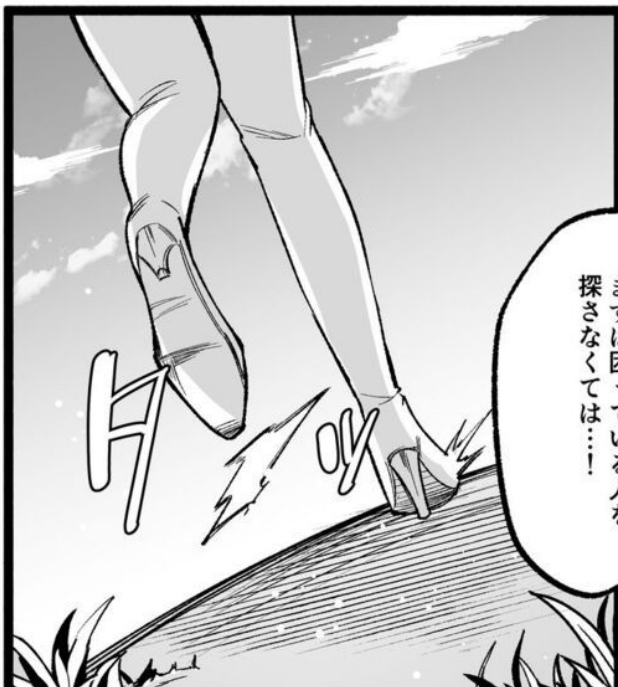


吉報を待っていますね





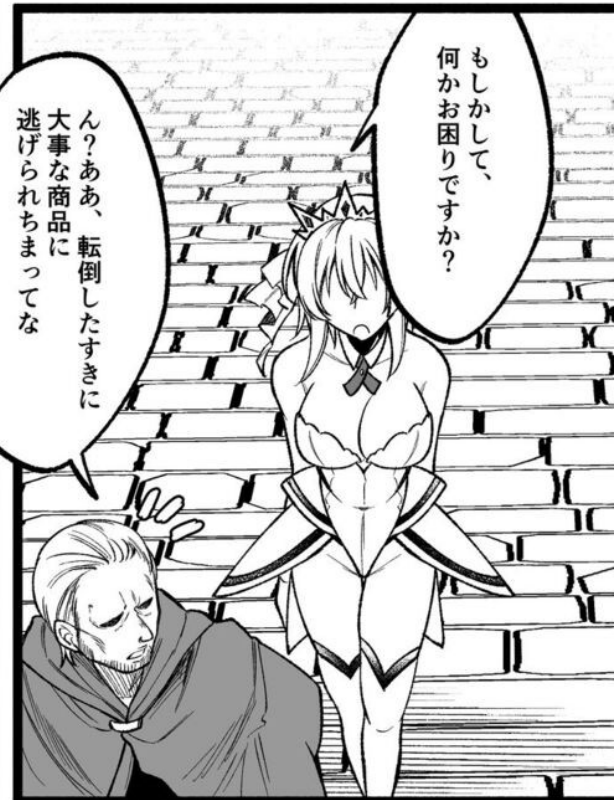
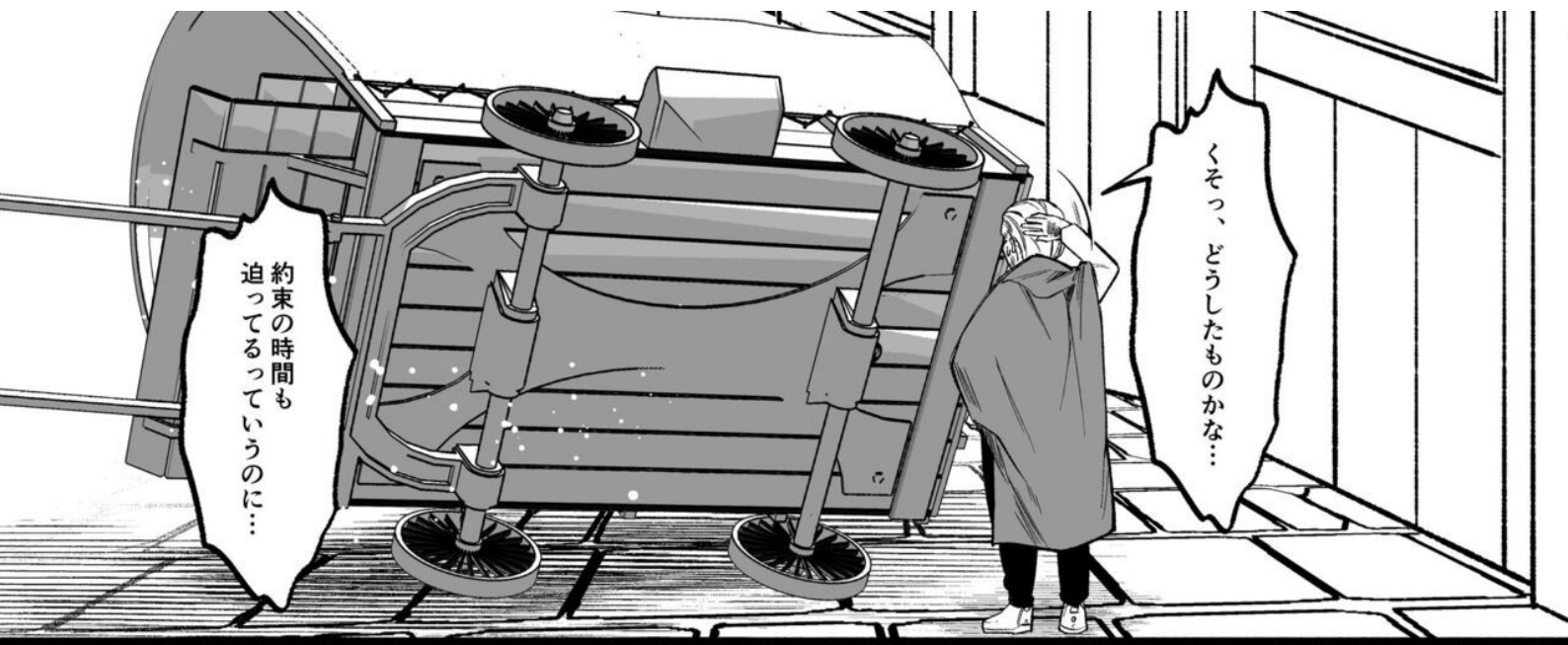
…ここが地上界

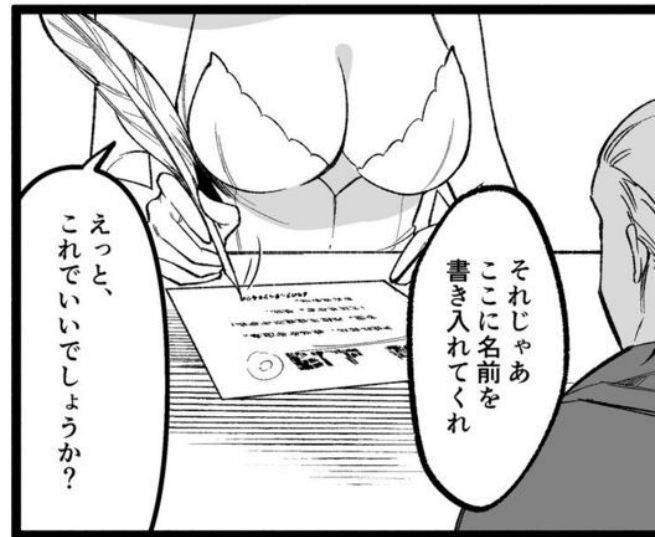
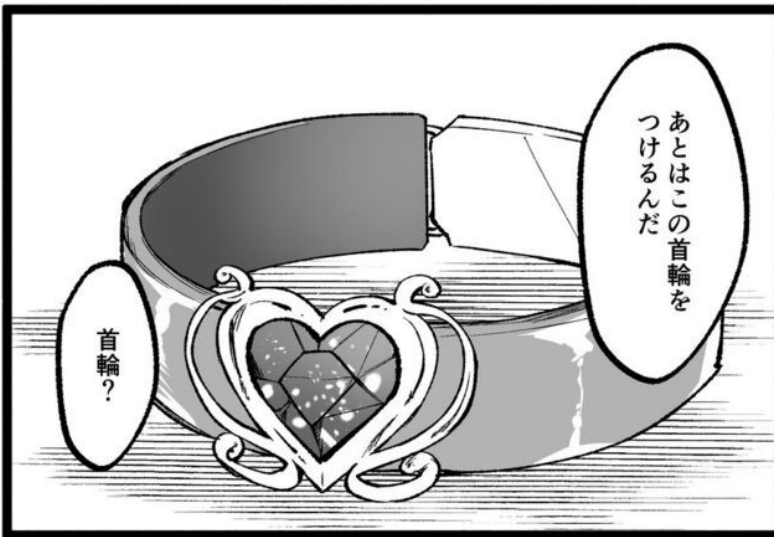
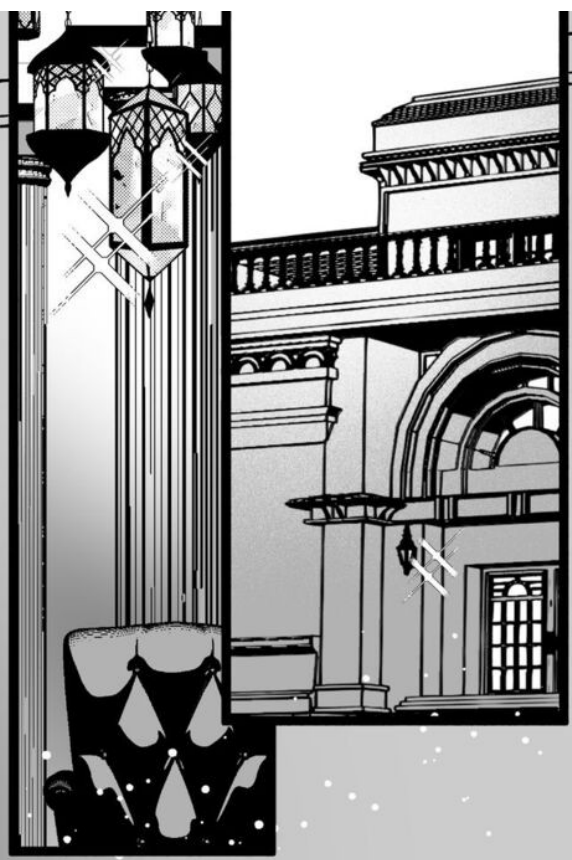


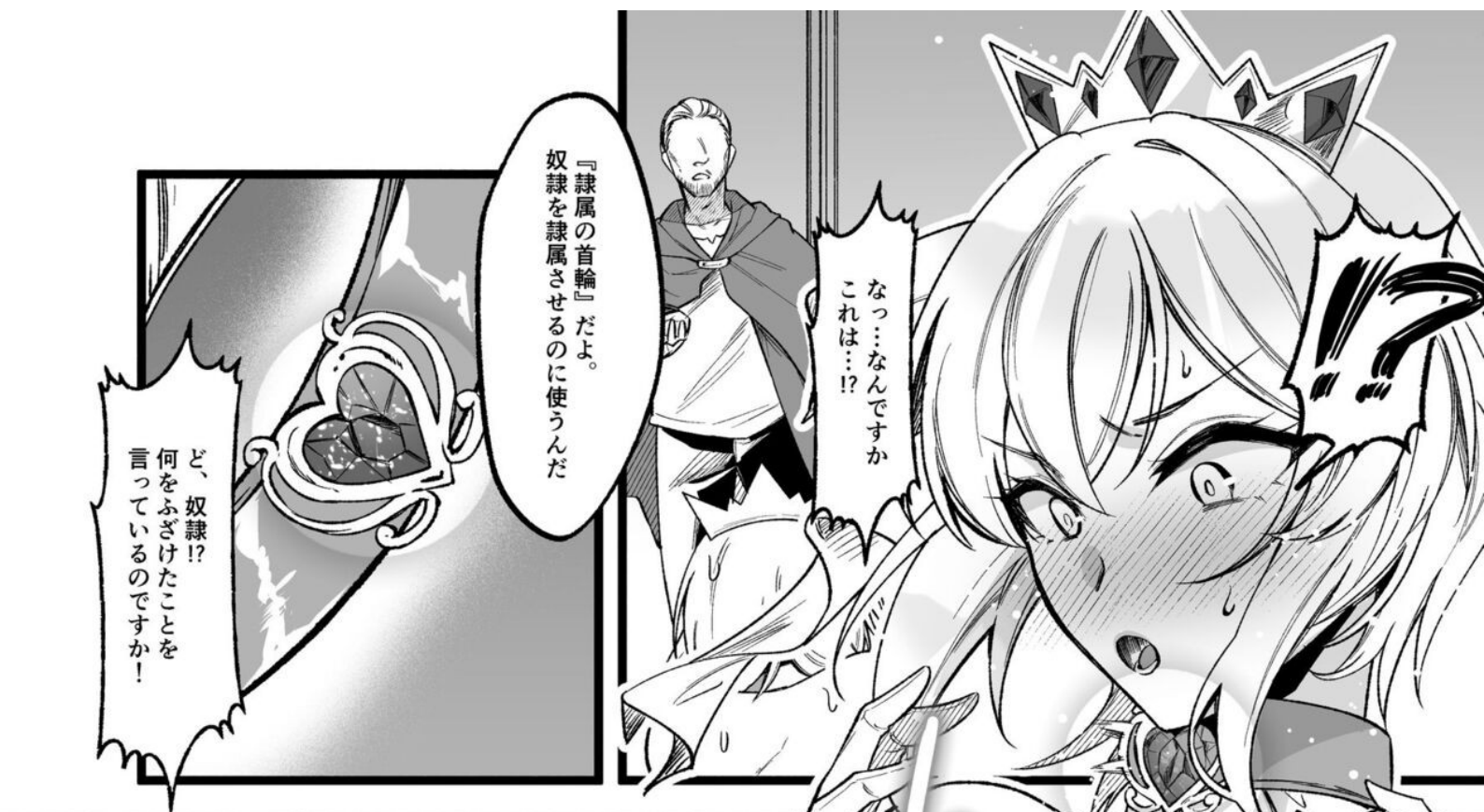
まずは困っている人を
探さなくては…!



は、
っと見とれている
場合ではありませんね







なっ…なんですか
これは…!?

「隷属の首輪」だよ。
奴隷を隷属させるのに使うんだ

ど、奴隷!?
何をふざけたことを
言っているのですか!



おいおい
気づいていなかったのかよ

ここは奴隷娼館で、
お前は今日からここで働くんだ



おすわり!!



このっ!!

だ、騙したのですか!?



これでわかったら？

お前はもうご主人さまの
命令には逆らえないん
だよっ…！

じっとしてろ
ルナリア

んっくっ
ふうっ♡ううっ♡

いやっ!? 本当に
身体が動かないっ!?

ほれ、お望み通り

オレのを入れてやらアッ!

んんっ
あっふあああアッ!?



力が入らない…
首輪をなんとかしないと…

おい 余計なことは
考えるな

快感にだけ集中しろ

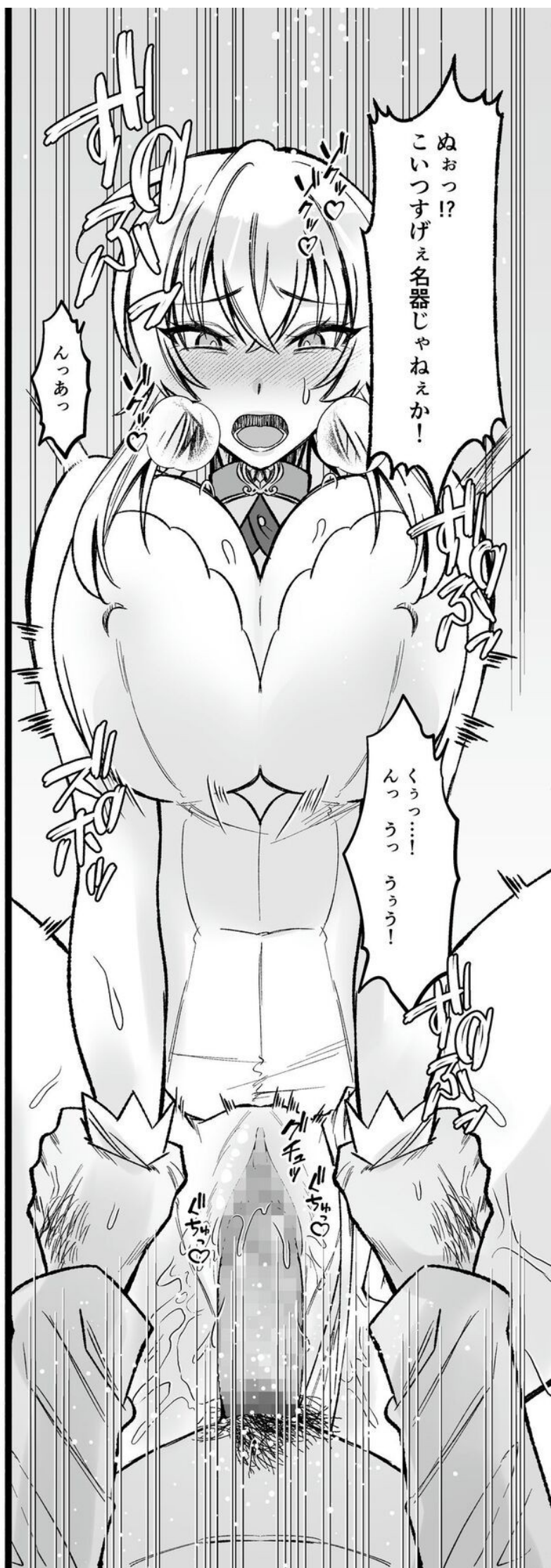


ふあっああっ
ひああっ…

気持ち良すぎて
頭が真っ白にいつ



おらっ出すぞっ!
奴隷になったお祝いだっ!



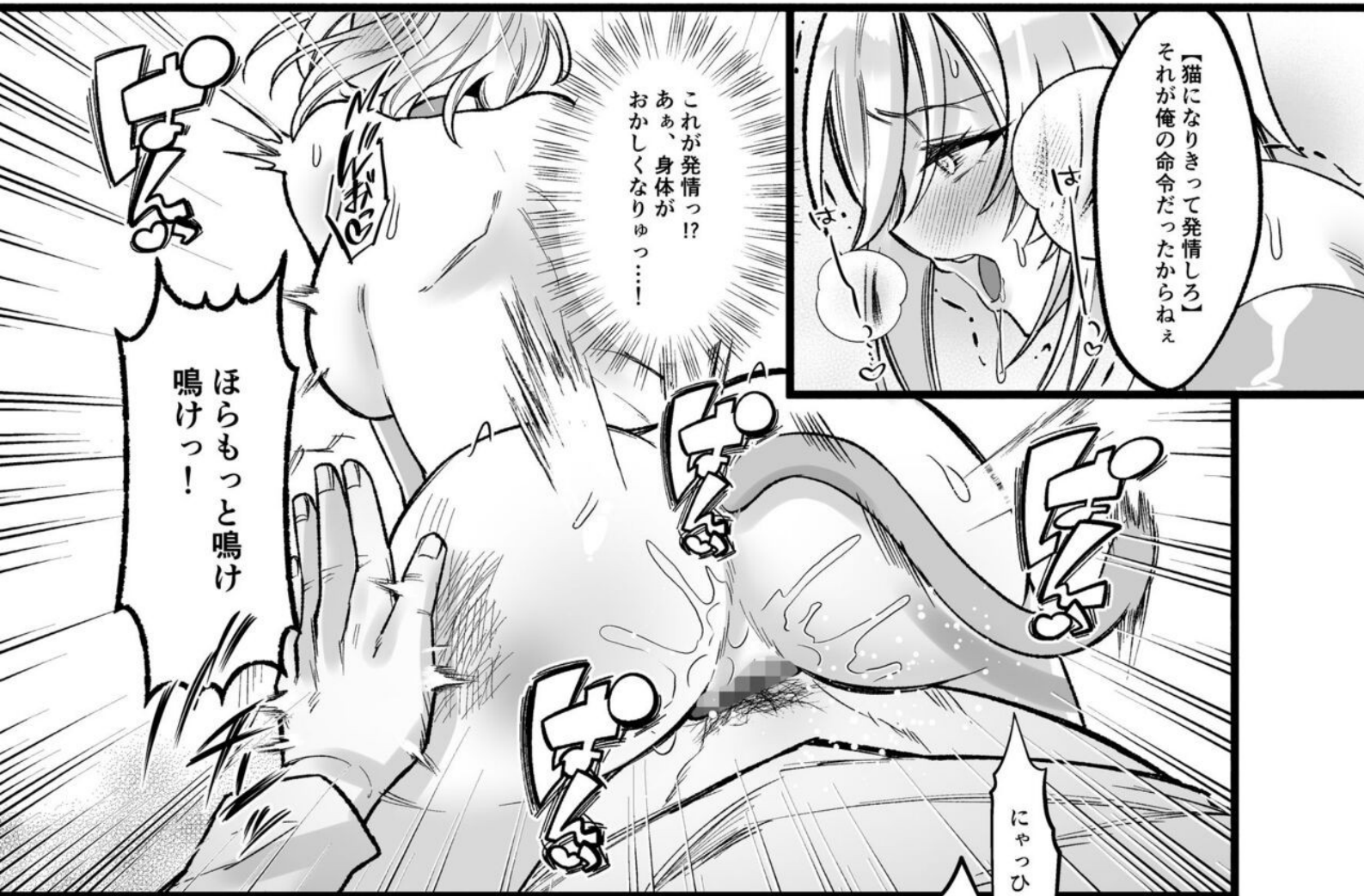
ぬおっ!?
こいつすげえ名器じゃねえか!

んっあっ

くっ…!
んっ…
うっ…
うっ…!





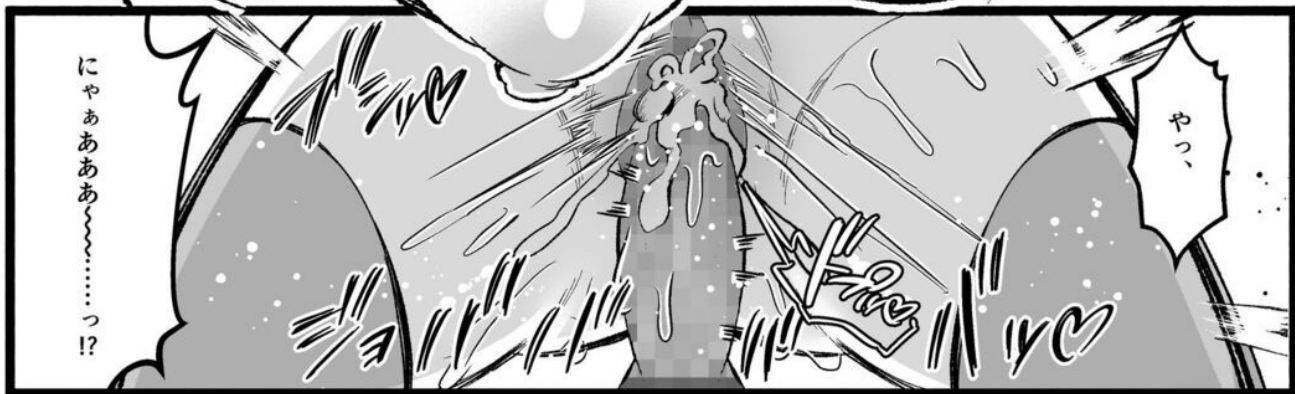




せっかくだし、
イクのと同時に
おしっこしてもらおうねえ！

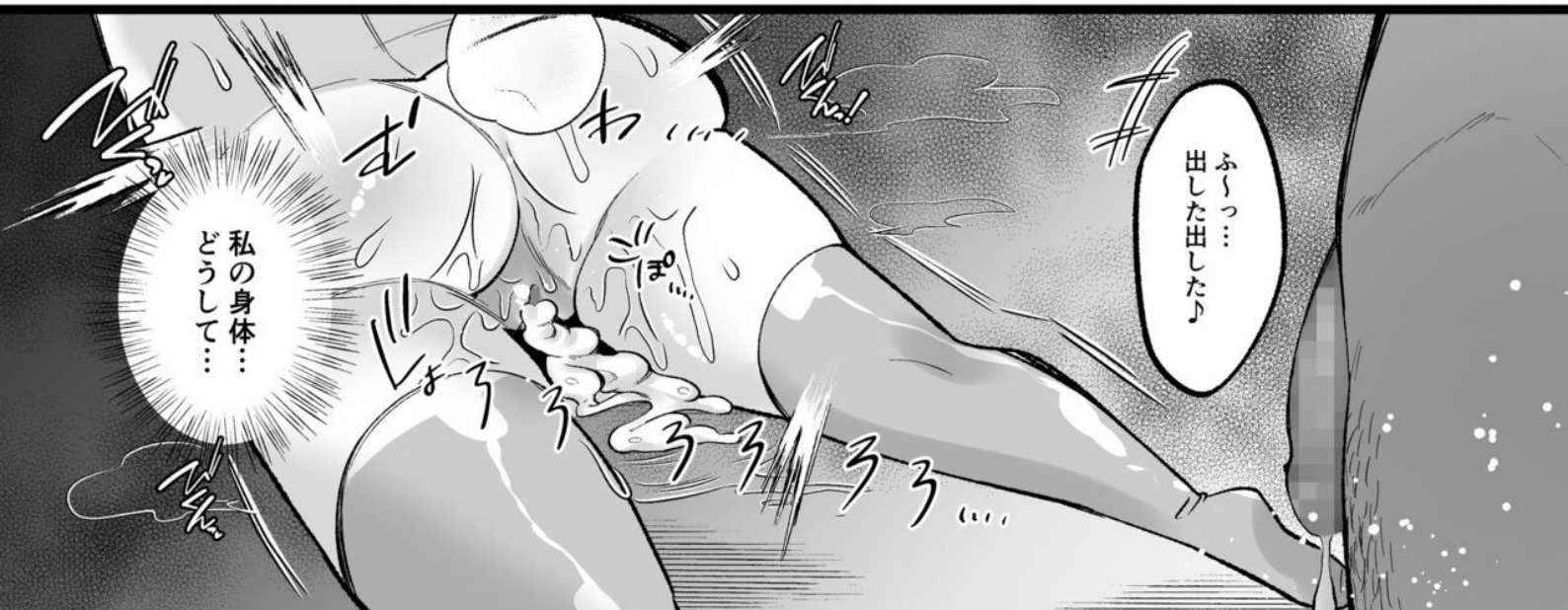
にやっ、ああつ、
も、もお、ダメツ……！

やっ、そんなつ、
あつ、ああ、ダメツ、
止まって！！



にやあああああ……っ!?

やっ、



ふっ……
出した出したッ

私の身体……
どうして……

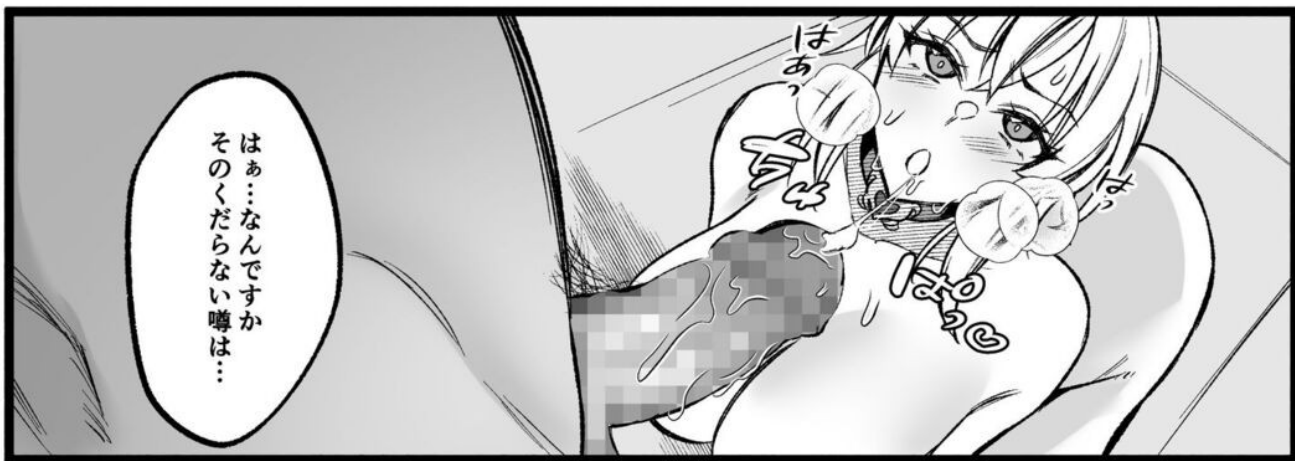


お前が相手にした男は成功出来るって噂があるんだぜ

知ってるか？

こんない相手に当たるなんてな

武道大会の景気づけに寄って正解だったぜ



はあ…なんですかそのくだらない噂は…



ふぐうっ!?

俺が試してやる…

くだらないかどうか

よっ!!





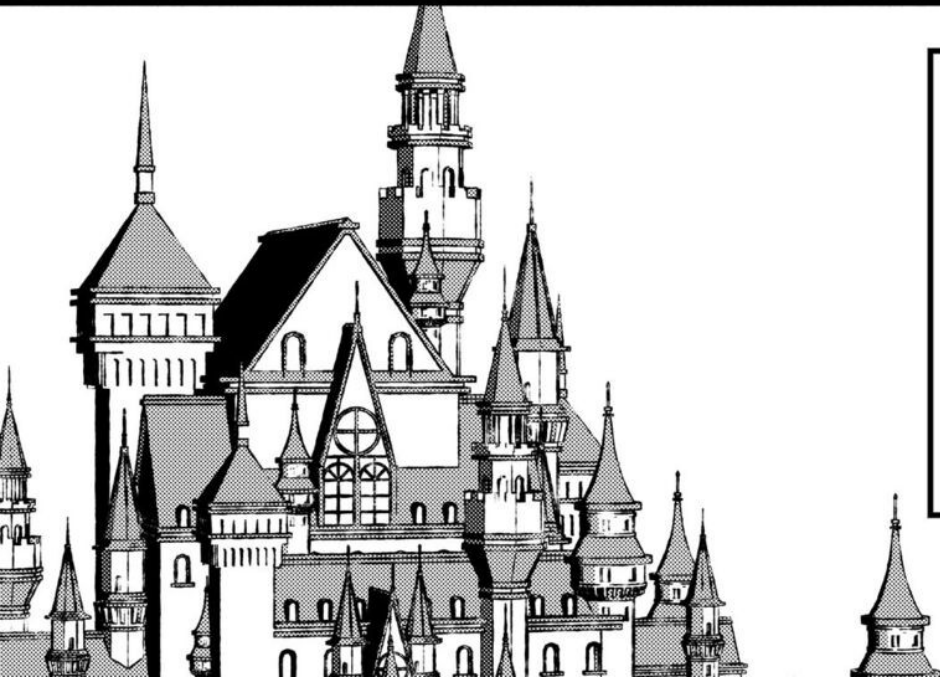
おかげで今日は勝てそうだ

ふー、スッキリした
まるで女神の奇跡を
受けたようだぜ



この男は本当に
武道大会で優勝し

ルナリアの噂は
王都にまで届くこととなる





よかったな
奴隷娼婦から解放だぜ



お前を買いたって
奴が現れた

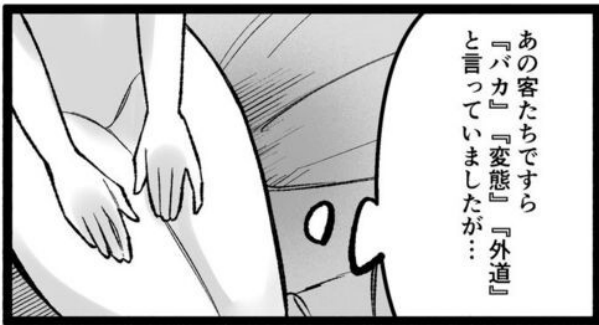
おい、ルナリア

それからしばらく私は
奴隷娼館で過ごしていた
のですが…



私を買ったのは
王子だったのですね…

ん？黙ってないで
何か言ったらどうだ？



あの客たちですら
『バカ』『変態』『外道』
と言っていました…



どうか私を解放
してください

私には人々を救うという
使命があります



ぐひひ、お前が娼婦ルナリアか
噂通りの上玉だなあ





おお、流石は高名な娼婦
上手ではないか



一発目のご褒美は
お前の口にくれてやろう！



…っ!?

吐くなよ
美味しそうに飲み込め

んっぐっ
くあはあ…♥

まっ
こんなのが美味しく
感じるだなんて…
ありえないのに…



きつと少しは小さく…!?

ぐひひ、興が乗ってきたわ



でも、あのまま
入れられるよりは…



だったら入るように
身体を変えればよからう

む、無理です…!
そんな大きいの入らなっ!?

ほれ股を開け



びびり、あつ…!?



余の専用にする
身体を変えよ

おっ!
おっ!



あっ
う、嘘っ!?

おっ!
おっ!

おっ!
おっ!



きき気持がよいですす...!?!

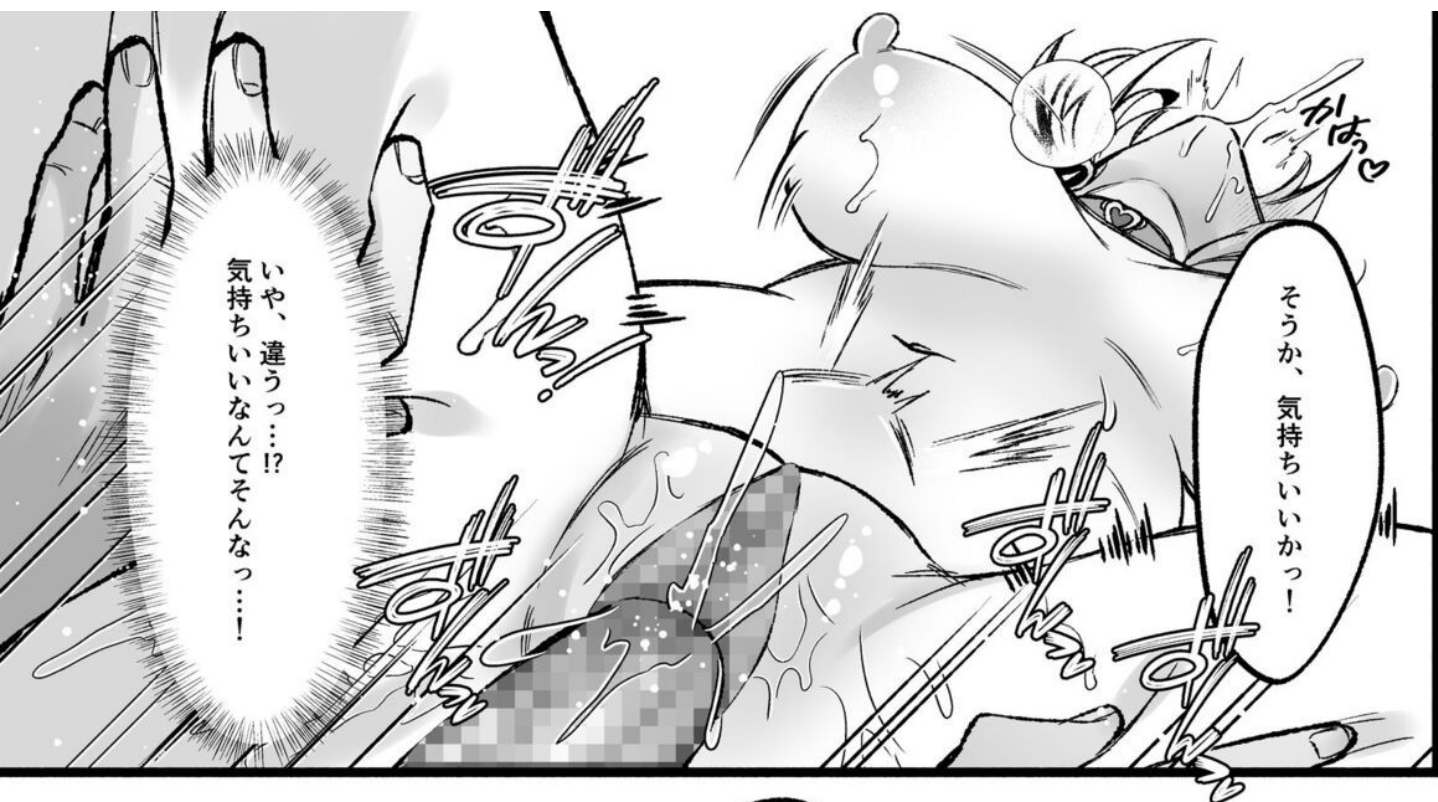


どうだ?気持ちいいか?
素直に答えてみよ

こっ、んなっ...

こ...こんなのっ...!

こんなんっ 大きいのが
入ってるのに...
苦しいどころか...





それからの記憶は
おぼろげにしかありません

どちらでも余の寵愛が
受けられるようになるのだ

ヒッ♥んっ♥

おほっ♥こんなものっ♥
いっ♥イぐっ♥



ぐひひ
ねっとりと余のモノを
舐り尽くせ

王子による調教の数々は
私の身体と心にしっかりと
刻み込まれ



次第に王子のそれに対する欲望が
芽生えてくるのが感じられました

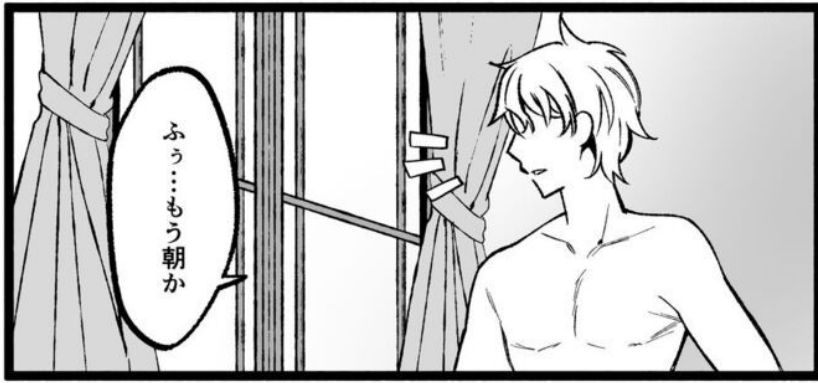
んっ♥ぐっ♥くうっ♥
ふっ♥れろっ♥れろおっ♥

も、もおっ、入らにやっ♥
ひあっ♥あっ♥あああ♥

入らないではない
入れるのだ!!

あっ、あああ♥
また身体が受け入れようと
変わってええ♥







ぐひひ、その下着も
よく似合っておるぞ

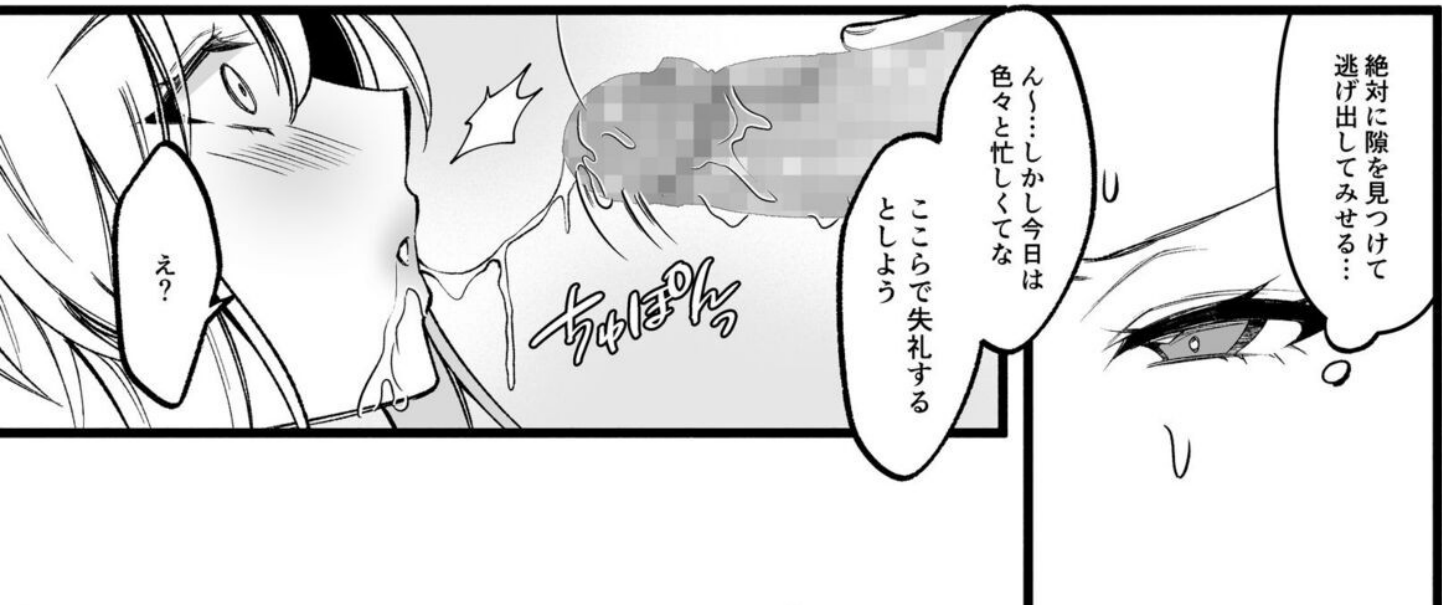
ありがとうございます…
ご愛います…

それにお前の方から
余のものを舐め出すとは…



かなり仕上がってきたようだ

…自分から動いたほうが
早く済むだけです



絶対に隙を見つけて
逃げ出してみせる…

ん…しかし今日は
色々と忙しくてな

こちらで失礼する
としよう

え？



私は…私の望みは…

わ、私…

ザッ



ドクッ…

本当はどうしたいんだ？

私が王子のを
欲しがるなんて…



そろそろ素直になれ

ドクッ

そ、そんなの
ありえないわ…



どうした？
舐めるだけでは足りぬのか？

ドクッ



たあ

はっ♡

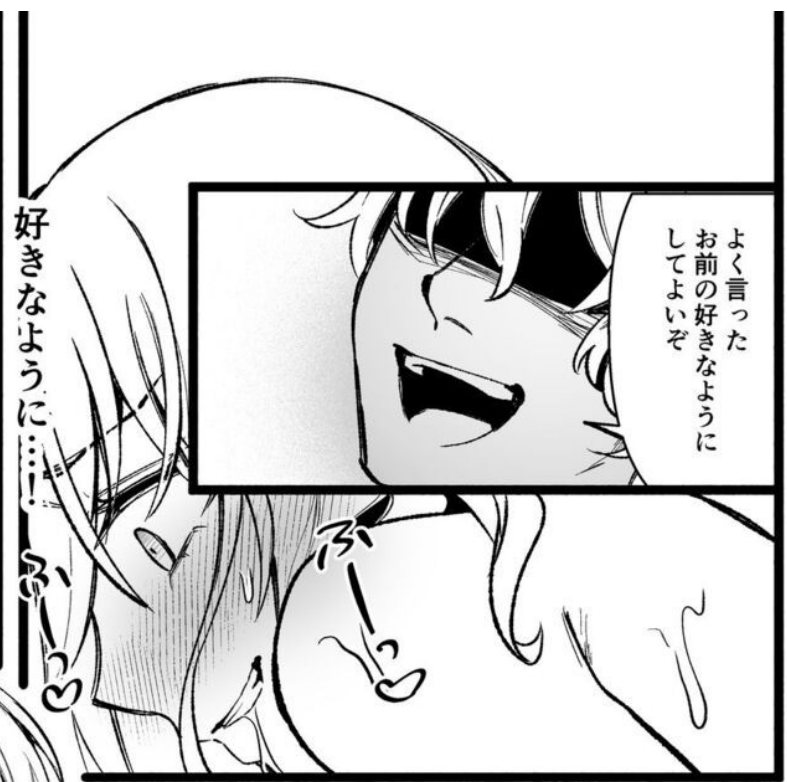
私が私で
なくなるくらい

王子様の寵愛を
賜りたいです…♡

あ♡



来たわ、これで私は…!!



よく言った
お前の好きなように
してよいぞ

好きなように…!!
ふっ♡



はあああんっ♡

王子様ので満足できるまで
気持ちよくなっているのですね♡



すっかり墮ちきったな

わ、私っ♡♡
もお、我慢できませんっ♡♡

ほっ♡

ほっ♡

はい私の身体は…
心もお…全部全部っ…♡

一つだけ間違っているぞ

お前のおかげで余は
もうすぐ王に即位する

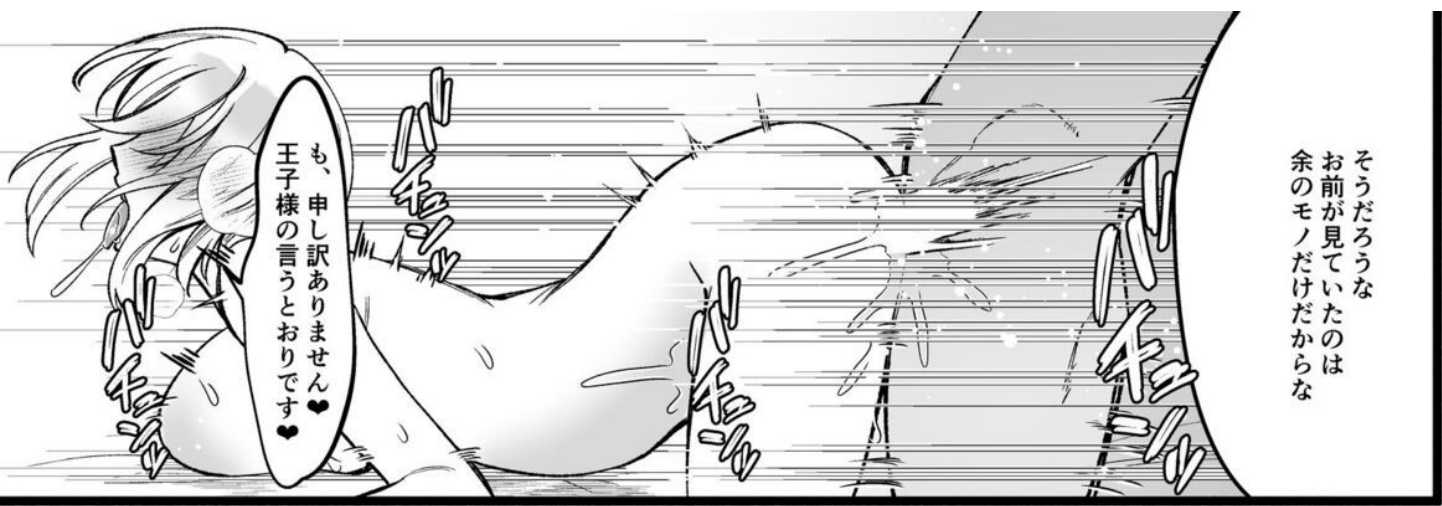
ひゃっあっ
わ、私のっ…!?

王子様の…王子様のおちんぼの
ためだけにあるのですっ♡

あの噂は本当だったようだな
余の行った政策が
尽く上手くいったのだ

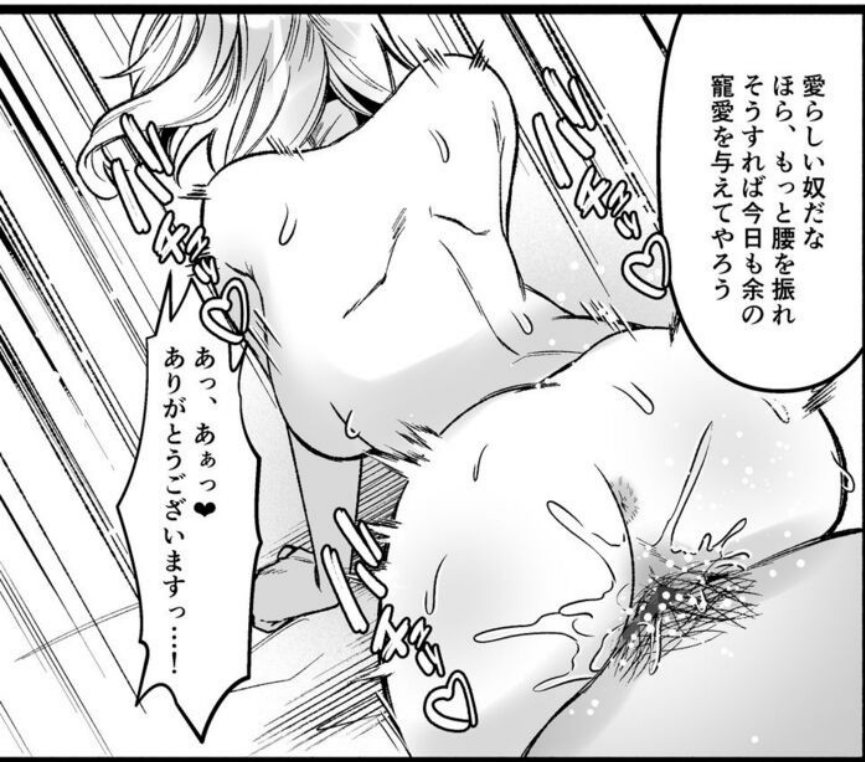
それだけでない
姿まで変わったと
言うものもおる

あっ、ううっ
き、気づきませんでした♡



そうだろうな
お前が見ていたのは
余のモノだけだからな

も、申し訳ありません♡
王子様の言うとおりです♡



愛らしい奴だな
ほら、もつと腰を振れ
そうすれば今日も余の
寵愛を与えてやろう

あっ、ああっ♡
ありがとうございますっ……!



私っ本気でっ…♡
王子様のっ…♡王様のため
おちんぼのためにっ♡

思い切り動きまひゅうっ…♡



私は、ルナリアはあ♡

王子様のおちんぼしか
見ていませんでしたあ♡



はいはいはい
ありがとうございます♡♡♡

さあ、受け取るがいい!!
イクぞ!!



あーっ♡

あーっ♡

あーっ♡



ああ、私はもう…♡



あーっ♡

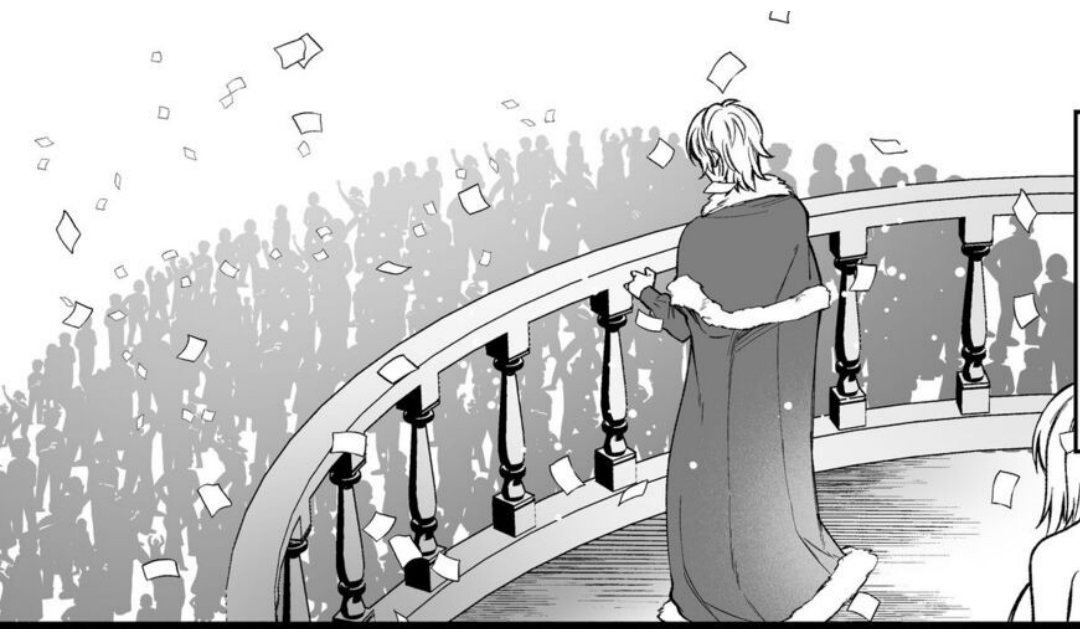
ああああああ

ふあっ♡あっ♡

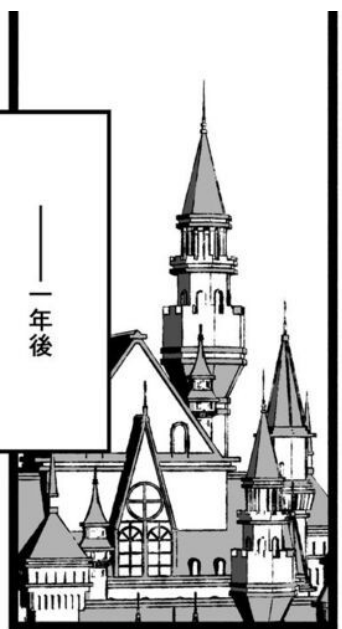
あーっ♡



これがないと生きていけない♡



一年後



私の使命は
決まっています♥

永久に旦那様のおちんぽを
愛し尽くすことですよ♥

ガルド王国の聡明なる賢王
その傍らには快樂に
堕ちきった妃の姿が
いつもあったという



ガルド王国万歳！
賢王様万歳！

ふふふ、これも全て
お前のおかげだ
ルナリア『妃』



ところで
思い出したのだが

最初に会った時
使命があると言って
いなかったか？





